

## 第1回 地理学連携機構臨時総会 議事録

日時 2017年9月30日(土) 12:10~12:50

会場 三重大学人文学部棟102号室

### 出席学協会(出席者)

経済地理学会(加藤幸治)、人文地理学会(石川義孝・矢野桂司・吉田道代)、地理科学学会(由井義通)、地理教育研究会(谷川尚哉)、地理空間学会(森本健弘)、地理情報システム学会(相尚寿)、東京地学協会(春山成子)、東北地理学会(村山良之)、日本地域学会(櫻井一宏)、日本地図学会(若林芳樹)、日本地理学会(松本 淳)、日本地理教育学会(竹内裕一)、日本都市学会(酒井高正)、兵庫地理学協会(山崎 健)、歴史地理学会(天野宏司)

### 欠席学協会

水文・水資源学会、地域地理科学会、日本環境教育学会、日本環境共生学会、日本沙漠学会、日本写真測量学会、日本水文科学会、日本生気象学会、日本雪氷学会、日本地下水学会、日本地形学連合、日本地質学会、日本都市計画学会、日本土壌肥料学会、日本農業気象学会、兵庫地理学協会、日本陸水学会、気候影響・利用研究会

### 地理学連携機構

代表:氷見山幸夫(日本学術会議会員)、人文・経済地理及び地域教育関連学会連携協議会議長:石川義孝(日本学術会議会員)、幹事・地理関連学会連合副議長:松本 淳、幹事・人文・経済地理及び地域教育関連学会連携協議会副議長:矢野桂司、書記:田林 雄(日本地理学会交流専門委員)

### オブザーバ

井田仁康、碓井照子

### 配布資料

資料1 地理学連携機構加盟学協会一覧

資料2 地理(総合)教育フォーラムの設立に関する資料

資料3 日本学術会議地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教分科会の提言書「持続可能な社会づくりに向けた地理教育の充実」

資料4 学術雑誌のScopusへの登録に関する資料

資料5 国際地図学会(2019年東京開催)の案内

資料6 日本学術会議公開シンポジウム「持続可能な社会づくりに向けた地理教育の充実-SDGs実現における教育の役割-」の案内

資料7 国際地理学会地域大会(2018年カナダケベック開催)の案内

氷見山代表が議長，田林日本地理学会が書記を務めることとし，参加者の自己紹介の後，議事に入った。

## 議事

### 1. 地理（総合）教育フォーラムの設立について

資料2に基づき，矢野幹事より，地理（総合）教育フォーラムの設立について，以下の説明がなされた。

- ・ 2022年の新しい学習指導要領により「地理総合」が必修科目になるのに際して，体制を整備する必要がある。碓井先生が分科会委員長を務める日本学術会議の地理教育分科会から，8/8に資料3の「提言」が出された。本提言3-(3)にある『「持続可能な社会づくり」に向けた地理教育を支えるための体制づくり』が必要である。
- ・ 学習指導要領は今年度中に提出されるが，地理学関係の学協会としては，教育現場をサポートする，窓口の作成をする，ポータルサイトを作る，関連するシンポジウムの案内をする等々をしていく必要があり，地理教育に関する学会関係者が幹事となって方針を決めていきたい。これにより，地理学連携機構で2022年に向けたバックアップ体制を確立したいと考える。
- ・ 組織体制としては，従来の「教育GISフォーラム」を発展的に解消させ，「地理教育フォーラム」に移行することを提案する。なお，資料2にある（総合）は，「地理探求」も視野に入れる必要があるため，削除したい。
- ・ 本フォーラムの主要な役割は以下の4点：
  - 高校教育だけでなく，小中高の教育バックアップ体制も築く。
  - 教育免許更新についてもバックアップ体制を築く。
  - 地理教育フォーラムは，地理教育に関する質問や疑問など全ての窓口にする。
  - 教材の素材集の作成等も担当する。
- ・ 各学協会は本案件を持ち帰り，フォーラムに幹事を出すかどうかを検討してほしい。またフォーラムでやる事項に関する提案をしてほしい。

碓井照子オブザーバから，以下の補足説明があった。

- ・ 地理学のプレゼンス向上のため，「地理総合」は必ず成功させる必要がある。
- ・ 発足初期は地理を教える教員の多くの専攻が歴史関係者であるため，手厚いサポート体制の構築が必要である。
- ・ アクティブラーニングの素材も準備する必要がある。
- ・ 教育免許更新講習についてもフォーマットを画一化したい。
- ・ 教育現場に研究者が研究を紹介する社会貢献活動も推進したい。

以上の説明の後，矢野幹事より，地理教育フォーラム準備会の設立について，下記の提案がなされた。

- ・ 名称は「地理教育フォーラム（仮）準備会」とし，矢野幹事が代表を務める。
- ・ 参加学協会は，日本地理学会，人文地理学会，地理情報システム学会，日本地図学会，日本地理教育学会，地理教育研究会，東北地理学会，地理科学学会，歴史地理学会として幹事会を構成する。他に参加希望学協会があれば歓迎する。

- ・参加希望学協会は、準備会に参加する幹事の名前を 10月31日までに矢野幹事宛に提出する。  
要望や意見も 12月31日までに矢野幹事宛に連絡する。

以上の提案が承認され、本臨時総会での決定事項として松本幹事が依頼の文案を作成し、幹事会で了解を得た後に、事務局より各学会にメールで連絡することとした。

## 2. 書誌データベース Scopus への登録申請について（石川副代表）

- ・ Elsevier 社が運営する Scopus は、Web of Science と並ぶ書誌データベースである。しかし現在、登録されている地理学関連の雑誌は限定的である。
- ・ Scopus では Web of Science のインパクトファクタに相当する Cite Score が表示される。
- ・ 国の研究活性度の評価にも繋がるので、各学協会が刊行している学会誌の登録を進めることを提案したい。登録方法は配布資料 4 もしくは、以下の URL を参照。日本語の雑誌でも登録が可能で、登録には資金は不要である。

<http://suggestor.step.scopus.com/suggestTitle/step1.cfm>

以上の提案が承認され、各学協会に対応を推進することとした。

## 3. その他（報告事項）

- ・若林委員（日本地図学会）より、2019年7月15-20日に東京の未来館において国際地図学会が開催される旨案内があり、宣伝のための葉書（資料5）が配布された。
- ・矢野幹事より、11月4日に日本学術会議において「持続可能な社会づくりのに向けた地理教育の充実」のシンポジウムが開催される旨、資料6により案内があった。事前申込がなくても参加可能だが、資料の準備等の観点から参加希望者は事前参加申込をしてほしい。
- ・矢野幹事より、2018年10月6-10日ケベックにおいてIGU・UGIのInternational Geographical Union Regional Conferenceが開催される旨、資料7により案内があった。

以上で議事を終了した。